

2024 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

英語遊び

<テーマの設定理由>

在園児にも、海外からの往復生活や、親が外国人の園児が増えてきている
このような国際社会の中で、幼い頃から、多様な価値観や多様な人と関わることはとても
重要であることから、英語を通して、多様な人と関わる楽しさを味わうことを目的とした

2. 活動スケジュール

1年間で 年長 11回 年中 11回 ・ 年少 10回実施

レッスン後には、一緒にランチをとったり、クラスでそのまま遊んだりもした

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

・活動のために準備した素材や道具、環境の設定・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

<活動のために準備した素材や道具、環境の設定>

英語講師が名前がすぐにわかるようにローマ字の名札を用意

<活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり >

初めてのレッスンは緊張し、ドキドキしていた子どもたちだが、英語講師のフク先生の明るくて笑顔いっぱい楽しませてくれる姿に、すぐに子どもたちも満面の笑顔になったぬいぐるみを使い、体をたくさん使った楽しいゲームに、子ども達は毎回楽しみにしていて、お昼にはランチと一緒に食べようと誘いにきたり、先生をみかけると「フク先生～」と声をかけ、親しんでいる様子が見られた



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

今年から英語講師が変わり、ベトナム出身の先生となった
おだやかで明るく、よく笑う優しい先生で、フク先生の英語を嫌がる子はほとんどいなかった
園児たちも教員も、フク先生が大好きで、英語の時間を楽しむことができ、英語講師の人柄の重要性も強く感じた
職員室でも、教員も積極的に英語講師とコミュニケーションをとることで、異文化の話を聞くことができ、園全体で英語や異文化に親しむことができた

2024 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

＜テーマ＞

ぞうけい活動

＜テーマの設定理由＞

うまい下手という優劣はつけず、自分を表現する手段としてのぞうけい活動とする
完成品はそれぞれ一人ずつ違うものになる
製作の時間を通して、自分と向き合う時間にもなる
のびのびと自由に好きなことを探し、開放感を体験する
道具を使う楽しみを知ること、自分自身の世界を広げる
お互いの違いを認め合い、いいものは真似し、よりお互いにいいものを作りあげていく
協働作品では、力を合わせ、お友達とアイデアを出して作り出す喜びを知り、より絆を
深める時間とする

2. 活動スケジュール

年間実施日 時期と年齢に適した内容で年間計画を構成

年長 7回 カメラ作り 釘打ち テントづくり など

年中 8回 ラミネート飾り（光を楽しむ）絵具の塗りたくり ホチキス遊び など

年少 8回 宝箱作り 腕時計作り スチレンボードにお絵かき
絵具 テラコッタ粘土など

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

<活動のために準備した素材や道具、環境の設定>

絵具の塗りたいくりでは屋上にロール紙を貼り付け、テラコッタ粘土の活動ではアトリエ、継続して続きをやるものは保育室で実施

絵具 スチレンボード 廃材 ラミネート スチレンボード 油性マジック

<活動の内容、活動中見られた子どもの姿、教諭との関わり等>

大量のテラコッタ粘土での活動では、汚れてもいい服装で、全身で楽しんだ
足で踏んで、うどんだ～と言っている子、木材をあわせて高低差のある道を作る子などおも
いおもいに楽しむ様子があった

屋上での絵の具の塗りたいくりでも、全身で楽しむ様子があった

年長のテント作りでは、テントに必要な BBQ コンロや、机・テーブルなど、必要なものをみん
なで工夫し続け、最後は園庭に運びキャンプをした



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

3年間の造形の最後のテント活動では、2年前年長さんが作っていたテントに遊びに行
った事もあり、とても楽しみにしていた年長児たち。造形講師の説明が終わると、一目散
にハサミや結束バンドを取りに行き、土台作り開始！「ここまだ終わってないよ！」「あと
は任せて！」などと役割分担したり、声を掛け合いながら取り組む姿があった

窓を作ったり、こたつを作ったり、BBQ グッズを作ったりと毎日色々な発想が浮かんで
いた また、それを実際に作れるだけの素材との関わりや経験が3年間あってこそその活動
と考えられる 表現する経験も、幼少期から積み重ねる大切さを感じた

2024 とうきょう すくわくプログラム活動報告書

1. 活動のテーマ

<テーマ>

野菜の栽培

<テーマの設定理由>

野菜や綿花の栽培を通して、自然の不思議さに驚いたり、感動したりする
世話をすることを通して、いつも自分は当たり前食べているものを作ったださる方への
ありがたさや苦勞に気付く
友達と自分で祖おだてた野菜を食べることを通して、食べる喜びを知る
自分が苦手な野菜にも、挑戦して、食べられるようにするきっかけにする

2. 活動スケジュール

<1 学期>

4 月 綿花の苗付け

5 月後半 各クラスごとに野菜の苗付け

園全体の観察用として、ナスやスイカ・ズッキーニも苗付け

5 月後半～ クラスで野菜の育ちを観察 水やり

6 月後半～7 月中旬 実った野菜（きゅうり・トマト）を収穫し、みんなで味見

<2. 3 学期>

9 月 綿花の収穫

冬野菜（ブロッコリー・キャベツ）の苗付けの観察

クラスで野菜の育ちの観察

11 月 ブロッコリーの収穫

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定

・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり 等を記載ください。

<活動のために準備した素材や道具、環境の設定>

・土 プランター 支柱 肥料 各クラスの名前プレート ・水

<活動の内容、活動中見られた子どもの姿、教諭との関わり等>

身近な場所なので、外遊びに出る前にプランター行き、毎日 15 分観察し、他のクラスとの野菜の成長を比較したりして、夢中で育ちを見守った

・綿花では、花がしぼみ、実になって、綿になる過程がおもしろく、綿になると触って大喜びをした

・葉っぱに虫がついている！きゅうりの赤ちゃんがある！、ツルがこんなところまでいっている！と、たくさんの発見をして嬉しい驚きを味わっていた



4. 振り返り <振り返りによって得た先生の気づき

実際に自分で土を植えて、苗も植え、水やりをしたことで、食べるのが楽しみになり、苦手な野菜も食べられる子もいたり、何回も何回もおかわりをした子もたくさんいた
暑い中、皆で食べる収穫野菜の味は格別であり、園全体で本当に野菜の育ち・収穫を楽しんだ1年になった

今までも、離れた場所に農園はあったのだが、毎日外遊びの際に観察できる場所を作ったことで、子ども達の経験が大きく変わったことを実感した素晴らしい経験だった
来年は、もっと様々なものを栽培・収穫予定